



株式会社アグレックス

## APC製品をトータルに採用し、拡張性に優れ 運用負荷・コストを抑えたデータセンターを構築

株式会社アグレックスは、ビジネスのバックオフィスを一括で請け負うBPO事業を中心に事業を展開している。紙の契約書などのデータ化から、そのデータをビジネスに活用するDM発送やコールセンター業務までをワンストップで提供しており、情報を預かるデータセンターも自社で構築、運用している。2010年、ディザスタリカバリー対策や西日本の顧客へのサービス向上のため、大阪に新データセンターを開設した。そこでは電源、ラック、空調、さらに統合管理・監視まで、APCの製品が採用されている。



株式会社アグレックス  
BPO大阪事業部  
営業推進部 事業推進グループ  
マネジャー  
赤松 康次氏



株式会社アグレックス  
BPO大阪事業部  
営業推進部 事業推進グループ  
石塚 敏隆氏



株式会社アグレックス  
BPO大阪事業部  
営業推進部 事業推進グループ  
福本 愛子氏

### ■ 背景

- 確保されたスペースに順次拡張できるデータセンターの構築
- 高いサービスレベル維持のための運用監視の自動化

### ■ 導入コンポーネント

- Symmetra® PX 40kW × 2セット
- InfraStruxure InRow® RC × 6台
- NetShelter® SX × 10本
- InfraStruxure Management Software(Central, Operations)
- NetBotz®
- Hot Aisle Containment System(HACS)引き戸タイプ
- Metered Rack-Mount PDU × 22本

### ■ 導入効果

- モジュラー型製品群の採用によるスモールスタートと拡張性
- 水冷化による空調コストおよびCO<sub>2</sub>排出の削減
- チラーを含めた一元管理・監視により運用負荷を低減

### ディザスタリカバリー対策として、 新データセンター構築を計画

アグレックスのBPO事業の大きな強みは、データ保護への徹底した取り組みだ。自社データセンターと作業オフィス、紙書類の保管庫がすべて同じビルにあるので、一度預かった書類やデータが外部に漏洩する危険は限りなく低い。保管期間を終えた書類の裁断、溶解までも同じビル内で行ない、預かった書類を2度とビルから出さないという徹底ぶりだ。もちろんビルへの入室や業務中のデータ利用も厳しく管理されている。

セキュリティを重視し、データセンターも自社で構築、運用している。あくまでもBPOが事業の中心となるが、データセンター業務を行なう専門業者と同レベルのセキュリティや可用性を求めて設計されている。さらにより高い安全性を求め、東京にあるデータセンターのディザスタリカバリー対策のために、大阪に新データセンターが構築された。新データセンターの要件に込めた思いを、アグレックス BPO大阪事業部 営業推進部 事業推進グループのマネジャー、赤松 康次氏は次のように語った。

「東京にデータセンターを構築したのが5年前のことです。

それ以来自社で運用してきた経験を活かし、よりよいもの  
にしたいという思いが強くありました」

挙げられた要件は、次の通りだった。ケーブルリングを考慮し、ネットワークラックとサーバーラックを分けること。ビジネス展開に合わせて段階的に拡張できるシステムとして設計し、スモールスタートすること。高いサービスレベルを維持できるよう、管理をできるだけ自動化すること。

### 段階的拡張を可能にするラック型空調機など APC製品をトータルに採用

導入機器の選定に当たり、アグレックス BPO大阪事業部 営業推進部 事業推進グループの福本 愛子氏は、東京のデータセンターで利用実績のあるAPCの電源製品に関して情報収集を行っていた。その際に目にとまったのが、ラック型空調システムの存在だ。

「スモールスタートを実現するために大きな課題となっていたのが、空調でした。従来通りの床下空調では負荷に応じた冷却調整ができないので、サーバーが少ない期間でも部屋全体を冷やさなければなりません。ラック型空調機ならサーバー増設に合わせて空調能力を増やせるので、そうした無駄は生じません。またチラー(熱源装置)にも段階的な増資が可能なモジュラーチラーを採用し、将来の拡張性を考慮しました。」

ラック型空調システムは、床下空調システムを運用する場合に比べ、最大負荷時でも2倍程度のランニングコスト



アグレックスのサーバールームに設置されたHACS(引き戸タイプ)

の差が生じると試算され、運用に伴うCO<sub>2</sub>排出量も大きく削減できると見込まれたことから、APCのInfraStruxure InRow RC導入を前提にデータセンターが設計された。当初、データセンター内に水が入ることへの不安感から冷媒式のInRow RP DXも検討されたが、屋外機と屋内機との配管距離が長く、冷媒式での対応が難しかったうえ、欧米を含めて実績が多かったため不安を払拭できた。さらに、ホットアイルとコールドアイルを完全に分離させ、より空調効率の高いHACSも併せて採用された。

InfraStruxure Management SoftwareやNetBotzを使い、APC製品以外の付帯設備機器も併せて統合管理・監視できることも、APC製品選定の大きな後押しになった。関西には以前から自社サーバーを設置したサーバーールームがあったが、そこではUPS、空調などを個別に管理しており、運用負荷が高いことが課題だったと、アグレックス BPO大阪事業部 営業推進部 事業推進グループの石塚 敏隆氏は語る。

「サービスレベルを維持しながら運用・管理・監視の負荷を軽減したいという希望がありました。監視を自動化できればデータセンターとして高いサービスレベルを継続できる上、そこで生じる余力をサービス向上に活かすこともできます」

電源装置にはSymmetra PXが、一部のPDUには新製品のMetered Rack-Mount PDUが選ばれ、ラックや空調機などと併せてAPC製品をトータルに使った環境が構築された。APC製品を全体的に採用するにあたり、障害対応の回数や交換部品に関わらず、メンテナンスが定額で提供されるという点も、見逃せないポイントだったと赤松氏は指摘する。

「部品代やサポート対応の回数によりメンテナンス費用が変動しないので、予算範囲内で確実に運用を続けられるという安心感があります」

#### 引き戸式HACSなど新製品も導入 ビジネス展開の基盤が完成

2010年夏に発注が決まり、本格稼働は2010年10月半ばからというごく短期間での構築となったが、事前に詳細な打ち合わせが行なわれていたこともありスムーズに工事が進行、データセンターは期日通りに稼働を開始した。

アグレックスに導入されたシステムにはひとつ、地味ではあるが日々の運用に大きな影響をもたらすポイントがあった。それは、国内で初めて採用された引き戸タイプのHACSだ。通常のHACSに取り付けられている扉に比べ、担当者が頻繁に開閉する際の負担が軽減されている。「通常のHACSと比べて、あまりに軽々とドアを開閉でき

るので、初めて触ったときには本当に感動しました」

福本氏はそう語り、女性に優しいデータセンターを作れたのではないかと、胸を張った。

実際に運用を開始してからは、管理性の高さも日々実感していると石塚氏は言う。

「設備全体の稼働状況を視覚的に把握できるので、管理は格段に楽になりました。障害発生に気付きやすく、素早い対応が可能な体制を作れたと自負しています」

特に今回のシステムでは屋上に設置されているチャラーの故障も、InfraStruxer Centralで一元管理できるよう工夫されているので、まさにサーバーを運用するための全ての設備を1ヵ所で統合管理・監視できる環境だ。

「今後は東京のデータセンターでお預かりしているシステムのバックアップ環境を構築するなど、東京のシステムと連携しながら順次拡張していく予定です。また、東京のディザスタリカバリーとしてだけでなく、西日本のお客様にも多くご利用いただけるよう努力していきます」

赤松氏は、今後の展望についてそう語った。可用性に富み、しかも柔軟に拡張可能なデータセンターを得た今、アグレックスの視点は、次のビジネスへフォーカスされている。



設置されたMetered Rack-Mount PDU

#### 株式会社アグレックス

##### ● 事業概要：

BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)、SS(ソフトウェアソリューション)、SI(システムインテグレーション)を柱とする総合情報サービス企業。1965年の創業以来、半世紀近くにわたり、大量のデータを抱える企業の煩雑な業務処理を一手に引き受ける独自のアウトソーシングビジネスを中心に事業を展開し、その後、システム開発・運用へとその領域を拡大してきた。業務処理とITのノウハウを総合化・融合化し、顧客に最適なソリューションを提供し続けている。

##### ● 所在地：

〒163-0216

東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

##### ● 設立：

1965年9月9日

##### ● URL：

<http://www.agrex.co.jp/>

#### シュナイダーエレクトリック株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-6 オアーズ芝浦MJビル

TEL：03-5931-7500 FAX：03-3455-2030

E-Mail：jinfo@schneider-electric.com

[www.apc.com/jp](http://www.apc.com/jp)

[www.schneider-electric.com](http://www.schneider-electric.com)

・記載された社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

© 2015 Schneider Electric. All Rights Reserved. All trademarks are owned by Schneider Electric Industries SAS or its affiliated companies.